



# Homedoor Annual Report 2015

**Homedoor**

ホームレス状態を生み出さない日本に

特定非営利活動法人 Homedoor

2015 年度年次報告書 (2016 年 6 月発行)

住所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 1-8-11

TEL：06-6147-7018

MAIL：info@homedoor.org

WEB：www.homedoor.org

2016 年 3 月 1 日に大阪市より仮認定 NPO 法人に認定され、  
2016 年 3 月 29 日に大阪府より条例指定 NPO に指定されました。

## もくじ

- 03 代表あいさつ / 沿革
- 04 Homedoor が目指す支援の形
- 06 住まいと暮らしの実態（インタビュー）
- 08 2015 年度の動き
- 10 就労支援
- 12 生活支援
- 14 2015 年度の支援分析
- 19 啓発活動
- 20 2015 年度にお世話になった皆さま
- 22 財務諸表
- 23 2016 年度の方針

## 団体概要 2016年3月時点

団体名：特定非営利活動法人 Homedoor

ビジョン：ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる

役員：理事長・川口加奈 理事・松本浩美 / 杉浦元 監事・木原万樹子

スタッフ数：事務局 6 名 当事者スタッフ 48 名 ボランティア 421 名

設立：2010 年 4 月

NPO 法人格取得：2011 年 10 月

仮認定 NPO の認定：2016 年 3 月



## 代表あいさつ

2015 年度は、私がホームレス問題に出会って 10 年という節目の年でした。あるおっちゃんが言いました。「今はこうして世話になってる身やけどな、いつか Homedoor に恩返しをしたい。それが今のわしの目標や」と。

正直、この 10 年は嬉しいことよりも、辛いことの方がずっと多かったです。2015 年度も、相談者が約 1.8 倍に増えたものの、万全の相談体制が築けていないと痛感したり、80 名に新たに就労機会を提供できたものの次のステップになかなか移行できなかったりと悔しさの残る結果でした。ただそういった中でも、続けてこられたのは、こうして支えてくれるホームレスのおっちゃんたち、そしてこの報告書を手にとっていただいたご支援くださっている皆様のおかげです。

路上からでも働ける仕事を作るということ。どんなに困窮状態に陥っても、もう一度やり直せる機会を提供するという。誰もが何度でもやり直せるということ。それは、どれだけ挑戦して失敗したとしても、ホームレスにならないほどの強固なセーフティーネットがあるのなら、もっと挑戦ができるという、「挑戦の促進」につながると考えています。そうなった時、ホームレス支援はその枠組みを超え、挑戦と失敗が許容される社会風土を作ることにつながります。皆様もぜひ、「誰もが何度でもやり直せる」社会づくりにご協力いただければ幸いです。

特定非営利活動法人 Homedoor  
理事長 川口加奈

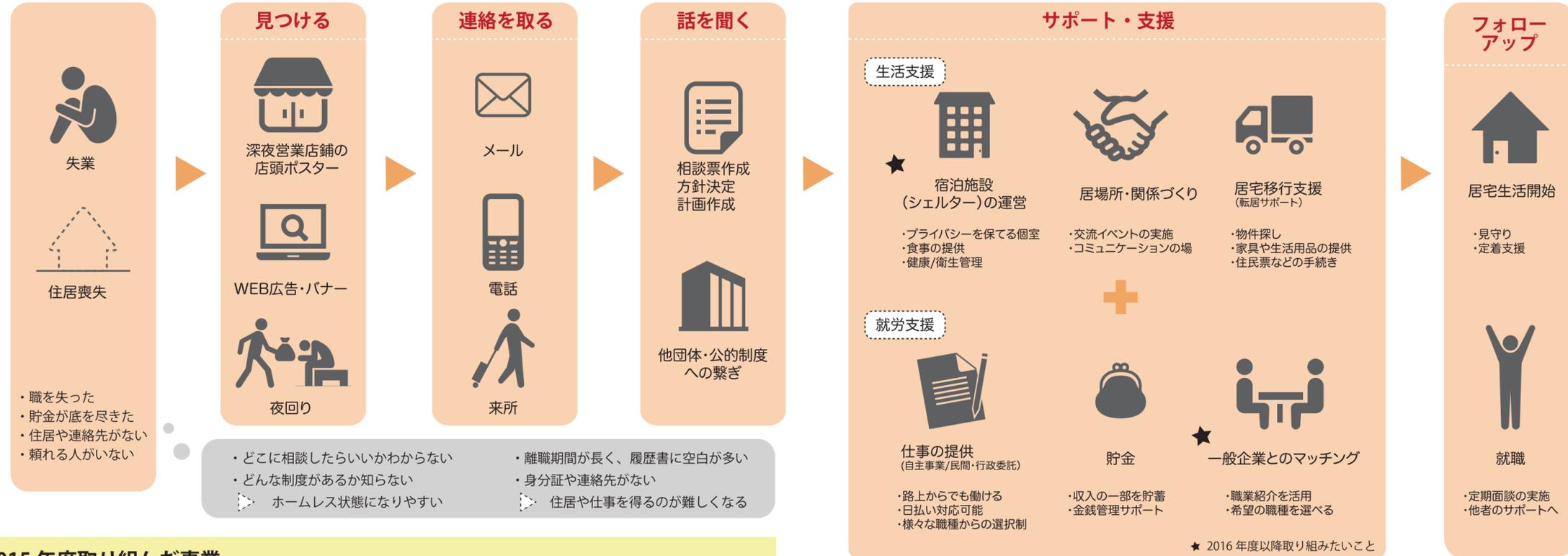


Photo by Yoshiro Masuda

## 沿革

- 2010.04 任意団体設立
- 2010.08 釜ヶ崎でモーニング喫茶を開始
- 2011.10 NPO 法人格認証 / HUBchari プレオープン
- 2011.11 大阪市中央区常盤町に事務所設立
- 2012.01 ビジネスプランコンペ edge2012 『最優秀賞』受賞
- 2012.03 第 8 回キャンパスベンチャーグランプリ (CVG) 全国大会 『経済産業大臣賞』『ビジネス部門大賞』受賞
- 2012.04 HUBchari オープン
- 2012.09 大阪市住吉区と HUBchari 協働開始 (2013.03 まで)
- 2012.12 事務所を大阪市住吉区我孫子に移転
- 2013.01 第 3 回地域再生大賞 『優秀賞』受賞
- 2013.04 大阪市北区と HUBchari 協働開始 (2014.03 まで)
- 2013.06 事務所を大阪市北区中崎西に移転
- 2013.09 「平成 25 年度岸和田子ども家庭センター社会生活グロウアップ事業」受託
- 2013.11 大阪市北区にてホームパト（夜回り）開始
- 2014.01 ボランティア登録制度導入
- 2014.02 一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネットの事務局業務を受託
- 2014.04 「平成 26 年度北区役所庁舎前駐輪整理業務委託」受託
- 「平成 26 年度西成区市民協働型自転車利用適正化事業 Do! プラン業務委託」受託
- 2014.07 「平成 26 年度平野区市民協働型自転車利用適正化事業「Do! プラン」」受託
- 2014.11 BEN&JERRY'S 主催集まれ！よよよい仲間たち『グランプリ』受賞  
深夜営業店舗にてバナー広告の掲載開始
- 2015.01 「平成 26 年度日常生活チェンジ事業」受託
- 2015.03 Google インパクトチャレンジ『グランプリ』受賞
- 2015.04 「平成 27 年度北区自転車利用適正化事業」受託  
「平成 27 年度西成区市民協働型自転車利用適正化事業」受託
- 2015.05 事務所を大阪市北区豊崎に移転（ホット&ハウス開所）/ 日経ソーシャルイニシアチブ大賞『新人賞』受賞
- 2015.09 健康相談会を事務所で定期開催
- 2016.03 仮認定 NPO として大阪市より認定、条例指定 NPO として大阪府より指定

# Homedoorが目指す支援の形



## 2015年度取り組んだ事業

### 就労支援事業

望まずして路上生活を送っている人がその状態から抜け出せるように

- ① **HUBchari**  
路上生活者の特技である自転車修理を活かしたシェアサイクル
- ② **HUBgasa**  
年間1億3000万本も使い捨てられるビニール傘のリメイクプロジェクト
- ③ **ホームネット**  
ホームレス支援に必要な機能を提供するための企業とのネットワーク

### 生活支援事業

社会的孤立をなくし自分らしく生きることを応援するために

- ④ **hot and house**  
路上生活者の日常をサポートすべく、ニーズに応じた設備を整えた居場所を提供、定期的に社会的孤立を防ぐためのイベントやプログラムを提供
- ⑤ **ホームパト**  
路上生活者の凍死や餓死を防ぐべく、第2火曜日に大阪市北区を3コースに分け訪問

### 啓発活動

路上生活者への偏見、襲撃事件や心の貧困をなくすために

- ⑥ **釜Meets**  
日本で最も路上生活者が多いといわれる釜ヶ崎の街歩き・ワークショップイベント
- ⑦ **講演・ワークショップ**  
根深いホームレス・生活保護受給者への偏見を解消するため講演やワークショップを実施
- ⑧ **HCネット**  
「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」の事務局として、教材用DVDや書籍を販売中

Homedoorでは、ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくりのために、上記の支援体制を取り活動を行っています。2015年度は、「ホット&ハウス」事業により相談者に休憩場所の提供を行うことが出来ました。2016年度以降は、寝泊まりができ困窮状態でもすぐに入居することができる宿泊施設の運営が課題となっています。

### コラム① 相談ボランティア制度を開始

これまでは相談業務はすべて事務局職員が行っていましたが、2015年度は、増加する相談者に対応できるよう相談ボランティア制度を開始しました。9月から開始した「相談ボランティア養成講座」には相談業務に関心を持つボランティア11名が参加し、うち4名(社会人2名・学生2名)が11月より相談ボランティアとして活動に加わってくれるようになりました。

私はHomedoorで月2回、相談ボランティアをさせていただいております。実際に、相談者対応の経験は少ないですが、それ以外の業務、おっちゃんとの会話をも通して、毎回勉強させていただいております。おっちゃん全員の名前と顔を覚えるのが今の私の目標です。これからも勉強していきたいと思っております。

相談ボランティア  
中原あゆみさん(龍谷大学)



養成講座の様子

おっちゃんへ直接インタビュー！

## 住まいと暮らしの実態



今、私が住んでいる家です。住み始めて1年ほどになります。いつも行く散髪屋で「これぐらいの長さで良かったですよ？」と言われるようになったり、買い物に行くときに「今日はこの店が安い」とわかるようになったり、生活が地域に根付いてきたと感じます。以前は、服や持ち物を置いておける場所がなかったので使い捨てていましたが、今は大事に取っておけるのも良いです。

山田さんが2015年6月から住んでいるアパート

山田さんは収納ラックや炊飯器などは寄付でいただいたものを使用。引っ越し当初には布団もお渡ししたのですが、数ヶ月後に「お金に少し余裕ができたので、僕よりも必要としている人に渡してあげてください」とクリーニングして返しに来てくれました。Homedoorへ届けられた寄付物品は山田さんのように居宅生活に移行された方が大切に使っています。

### 山田さん (54)

京都府生まれ。地元の高校を卒業後、親戚が経営する友禅染のお店で1年半働いたのち、海上自衛隊や陸上自衛隊に入隊。その後、電子工場でのチップ製作や美容室での洗濯の仕事を経て30歳頃仕事を求めて西成区へ。日雇い労働や生活保護の利用を繰り返すも、なかなか生活が安定しない日々を過ごす。

2014年10月に缶集めをしていたところ、Homedoorの夜回りに出会い、来所相談の後、就労支援を受けることに。Homedoorで働きながら徐々に貯金を貯め、2015年6月にアパートを借りることができ、計10年の野宿生活を終える。2015年6月から2016年3月まではHomedoorから提供していた仕事の現場リーダーとして、ほかのスタッフのサポートを担当。過去にはアルコール依存に陥り、病院で治療をし、克服した経験を持つ。趣味は音楽鑑賞。

Q どうして Homedoor に相談に行こうと思ったのですか？

アルミ缶を拾っているときに Homedoor の人にもらったお弁当にカードと一緒に入っていました。夜歩いているときに声をかけてくる人の中にはしつこい人やいわゆる貧困ビジネスもありますが、Homedoor はそういうのもなかったし、カードに「路上からでも働ける仕事あります」と書いてあって、**生活の足しになるならと思い**、相談に行きました。

Q 野宿状態でもできる仕事があることについてどう思いますか？

野宿状態だと仕事を得るのにいろいろな制限があるので、野宿状態でもできる仕事があるのは素晴らしいことだと思います。野宿のときはアルミ缶集めをしていましたが、Homedoor の仕事は**シフトなどの枠組みがしっかりして安定しているし、人とのコミュニケーションがあるのが良い**と思います。**社会に自分が必要とされていると感じることが一番大切で**、生きがいになります。

Q なぜ今まで難しかったアパートを借りることができたのでしょうか？

Homedoor の人の後押しがすごかったです。(笑) 自分が「どうなんやろう…」と不安や疑問に思っていることでも、サポートして進めてくれました。Homedoor の仕事は**半年から1年のスパンで先が見える**ので、安心して家を借りるお金を貯めることができました。

Q どうして公的制度に頼らなかったのですか？

生活保護を利用したこともありますが、うまくいきませんでした。**それまでの人との付き合いがなくなって人間関係を作るのが難しかったし、役所のケースワーカーはたくさんのケースを抱えているので一人ひとりに深く関わることはなく「就活してください。」という指導だけなのでハードルが高かった**です。

Q Homedoor に出会ったことで変わったことはありますか？

今まで自分が思っていなかった自分を発見できました。野宿状態のときは仕事をしていても一人で悶々として自己完結していましたが、Homedoor ではリーダーを務めていたこともあり、**まわりとのネットワークを持たないといけないので、きちんと言わないといけないこと**は言うようになりました。そうするとまわりからも「ああそうやな」と共感してもらえたり「それはあかんで」と一緒に言ってもらえるので、**自分は一人ではないんだと実感する**ようになりました。

Q 山田さんにとって Homedoor とは？

**自分を迎え入れてくれる場所**です。ほかの人には話せないようなことも話せるし、Homedoor に関わったことで**いろんな知り合いができました**。はじめはどちらかというと「依存している」という感じでしたが、就職先も見つかったので今後は仕事をしながら「**うまく利用する**」というスタンスで関わっていきたいです。

※山田さんは2016年6月に清掃関連の会社に就職することができました。



山田さん、インタビューに答えてくださり、ありがとうございました！優しく思いやりがあり Homedoor でも非常に人望の厚い山田さん。新しい職場でも前向きにお仕事に取り組んでもらえるよう、引き続き伴走と見守り続けてまいります。

## 2015年度の動き

### 4月 ◆ 大阪市北区・西成区で行政委託業務開始

大阪市内11エリアで自転車マナーアップ業務を1年間行いました。ホームレス状態にある人を含む生活困窮者66人に就労機会の提供を行いました。2015年度は現場リーダー制度を全エリアにて導入し、ホームレス経験のある人たちにリーダーを担ってもらい、ピアサポーターとしても機能してもらえるよう心がけました。



### 5月 ◆ 日経ソーシャルイニシアチブ大賞『新人賞』受賞

ソーシャルビジネスの健全な発展と一層の理解促進のため日本経済新聞社が主催する「第3回日経ソーシャルイニシアチブ大賞」にて新人賞を受賞いたしました。東京で行われた授賞式ではHUBchari卒業生から祝福のビデオレターが届けられ、会場も大いに盛り上がりました。



### 9月 ◆ 健康相談会を開始

相談者やHomedoorで就労している人が気軽に心身の健康について相談できるよう、無料の健康相談会を9月より月に1回の頻度で開催いたしました。西成区で訪問看護を行っているNPO法人HEALTH SUPPORT HINATAの看護師の方にお越しいただき、相談にあたっていただきました。



### 11月 ◆ 社会イノベーター公志園出場

新しい経済社会の実現に向け挑戦する社会イノベーターの支援を行っている「社会イノベーター公志園」に参加いたしました。5月に東京で開会式があり、仙台、名古屋、京都、福岡と5回に渡って開催され、経営者や学識者などのアドバイザーから事業のブラッシュアップをしていただき、その成果をプレゼンテーションをさせていただきました。11月の最終大会は東京の早稲田大学大隈講堂にて1,300人の観衆に向けて活動を伝える機会を持たせていただきました。



### 11月 ◆ HUBchari、新ポートオープン

大阪で若者の街として知られているアメリカ村（心斎橋）にHUBchariのポートがオープンしました。ポートの目の前にはアメリカ村の商業施設「BIGSTEP」があり、立地もよく多くの方にご利用いただいています。



### 2月 ◆ 子ども・若者支援団体とシンポジウム開催

「ステージで見る貧困問題～貧困の連鎖を断ち切るために～」と題して2月7日に大阪でシンポジウムを行いました。子ども支援を行っている村井さん（NPO法人山科醍醐こどものひろば）、定時制高校に通う学生を中心とした若者支援を行っている今井さん（NPO法人D×P）を招き、それぞれの支援分野に留まらない横断的な支援のあり方について議論を広げました。



### 2月 ◆ 深夜営業店舗での広告掲載拡大

2014年11月より全国約160の店舗を運営する企業さまから広告枠を無償提供いただき、相談者向けのバナー広告を掲載しておりました。2016年2月より店舗の受付やお手洗いにポスター掲載をしていただけることになりました。バナーを見て相談に来られる方は年々増加しており、生活に困っている人が早い段階で相談に繋がるような体制構築をできればと考えております。

### 3月 ◆ 仮認定NPO、大阪府条例指定NPOへ

3月1日に大阪市より仮認定を受け「仮認定NPO」となり、3月29日に大阪府より指定を受け「条例指定NPO」となりました。これまで多くの方に活動を支えていただいたおかげで仮認定や条例指定を受けることができました。地域で公益的な活動を実施していると認めていただけたということをお大変嬉しく思っております。



### 3月 ◆ 年間の相談者が150名を超える

2014年度の相談者が90名であったのに対し、2015年はその約1.8倍となる161名が相談に来られました。平均年齢は前年と比べると1.5歳下がり、40代以下の相談者が増えました。夜回りで会う方は比較的高齢なのに対し、メールやインターネットを通じて相談される方は若く、今後の支援体制を考えるきっかけとなった1年でした。



# 「働きたい」に応える 就労支援



自転車修理講習に精を出すスタッフたち



仕事の合間に事務所で談笑



屋上庭園の水やりの仕事、「やってみたら結構楽しい！」



当事者経験のある人たちを現場リーダーに迎え入れ、会議を実施



「仕事のやりがい？違法駐輪がちよっとずつ減っていくことかなあ。」



講演会に登壇する機会提供も



調理の仕事に就くために事務所で練習中



地域の夏祭りでお手伝い！



仲間と談笑しながら、事務所で日報を清書



「できるだけワキに寄せるねん、そしたらみんな通りやすいでしょ。」



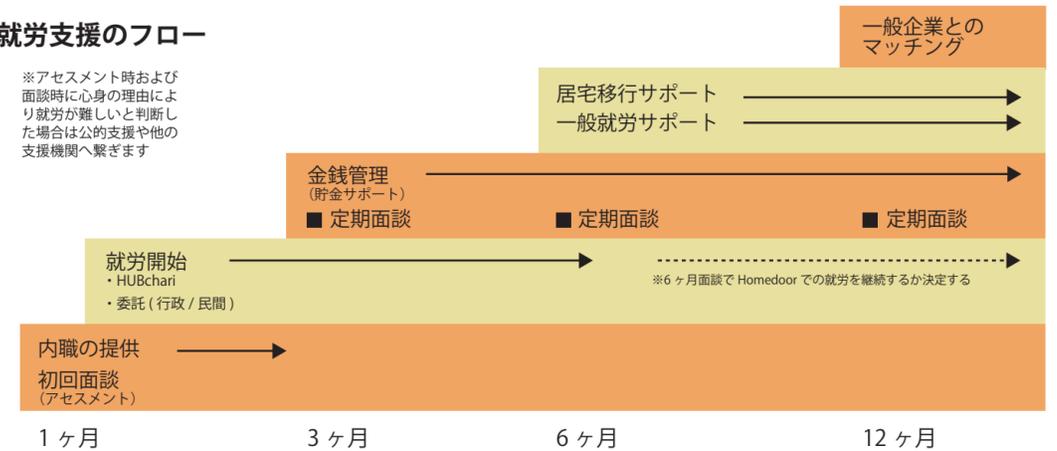
HUBchari 以外の自転車も依頼があれば出張メンテナンス！



「日報はこうやって書くねん」先輩スタッフが優しく指導する光景も

## 就労支援のフロー

※アセスメント時および面談時に心身の理由により就労が難しいと判断した場合は公的支援や他の支援機関へ繋がります



### 就労支援プログラムを受けたAさんの例

1か月目: 初回面談 (これまでの経歴や現在の生活状況聞き取り) → 内職の提供決定  
内職 (チラン折、裁断) をしながら仕事と生活のリズムを作る  
2か月目: HUBchariで6か月間の就労支援提供決定、週3日拠点で働く  
金銭管理プログラムを利用し、収入の一部を積み立てる

3か月目: 定期面談 (生活の変化や目標の達成具合の確認) → 今後の目標設定  
勤務を週5日に増やし、居宅生活移行に向けて積み立ての額も増やす  
6か月目: 定期面談  
貯金が目標額に達したので、居宅移行サポート開始  
アパートへ入居  
一般就労サポート開始  
12か月目: 一般企業とのマッチングにより清掃会社の面接を受け、合格

## コラム② 当事者リーダーの力

2015年度は、ホームレス経験のあるスタッフ4名を就労支援の現場リーダーとして採用しました。現場での業務をこなしつつ、新しく入ってきたスタッフに業務を教えたり、より効果的に業務をこなせるよう事務局に現場の状況を伝えたり、事務局と現場スタッフとのパイプ役を担っていただきました。また、月に一度、事務局職員と現場リーダーによる会議を開き、スタッフ一人ひとりの働きぶりや今後の課題について意見を交換しました。

リーダーの声を聴いていると、どのリーダーも本当にスタッフ一人ひとりと向き合っていることがわかりました。Homedoorで働くスタッフたちは、病気、借金、人間関係のトラブル、酒やギャンブルへの依存など、人には言えない様々な悩みを抱えています。同じような経験をしたリーダーたちだからこそ、スタッフに共感し寄り添うことができます。スタッフからも「ここではほかの人には言えないことも言える」「同じような経験をした人がいるから、安心できる」といった声が聞かれました。当事者だからこそできるサポート (ピアサポート) の力を、今後も大切にしていきます。

# 社会的孤立を防ぐ 生活支援



アートに触れるワークショップ。「塗り絵なんて何年ぶり？」



指を使った簡単ヨガ。リラックス効果バツグン！



クリスマス・忘年会での集合写真、みんな良い笑顔。



「欲張りすぎて、恵方巻き、巻かれへんわ！」



地域の人も巻き込んで、夏の風物詩・流しそめんを堪能！



金銭管理のワークに真剣に取り組む面々



「お腹いっぱいけどもう1個餅食べたい！」



高校生との交流会、ジェスチャーゲームは大盛り上がり



誰が一番強いのか、オセロ・ホムド杯を開催！



お正月らしく、餅つき大会を開催



高校生からのサプライズプレゼントに感激



「生で落語を聞けるなんて、面白くていっぱい笑ってた」



### イベント



### 講座

4月 お花見	12月 クリスマス・忘年会	アイスブレイク アートワークショップ（塗り絵） コミュニケーションワークショップ ヨガ体験 住まいを知る！住宅講座 金銭管理教室 落語体験
5月 事務所サロン	1月 餅つき大会	
7月 流しそめん	高校生とのゲーム大会	
9月 BBQ・花火大会	2月 節分・恵方巻き	
10月 ハロウィンパーティ	3月 バザー	
バザー		







2015年度に実施したもののみ掲載

### コラム③ 地域に根付くということ

ホット&ハウスを開所して約1年が経ちました。これまでHomedoorの事務所はマンションやビルの小さな一室でしたが、このたび2階建ての家屋に移ったため、おっちゃんたちとのイベントや講座もここでできるようになりました。これまでより多くの方が立ち寄るにぎやかな場所になり、地域の方からもいろいろお声がけをいただけることが増えました。食料を差し入れてくださったり、物品の寄付を申し出てくださったり、流しそめんや餅つきなどのイベントと一緒に盛り上げてくださったり、講座やバザーを覗きにきてくださったり...

ホームレスの人たちには、家だけではなく人との繋がりやコミュニティを持たない人も多くいます。ホット&ハウスが、「ここに来れば気軽に話せる誰かがいる」「見守ってくれる誰かがいる」「ほっと安堵」できる場所になるよう、これからも地域の方々との繋がりを大切に運営していきます。

### 路上生活脱出に必要な多種多様な機能を提供

2015年5月にホット&ハウスの運営を開始し、約1年が経ちました。ホームレスの人たちが気軽に来所し、食事や休憩、洗濯などを行えるようになりました。定期的にサロンや講座を開催し、人とのコミュニケーションや地域との繋がりにもなっています。9月からは健康相談会を毎月開催し、適切な医療を受けたり生活を改善したりする足がかりとしての機能も生まれました。ホット&ハウスの多くの機能が、寄付やステークホルダーの方々の協力により成り立っています。相談に来た人に必要なあらゆる機能を提供できるよう、今後もネットワークを広げていきます。



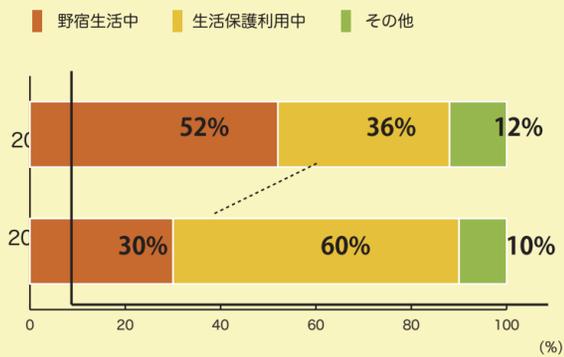
ホット&ハウスの日常風景

### 野宿状態でも「働きたい」人に就労機会を提供

2015年度は、Homedoor で提供できる就労の場の種類と数が大幅に増えた年でもありました。のべ80人に就労の場を提供したほか、ホット&ハウス内での内職作業を提供することもできました。働いた人の生活状況を見ると、「野宿生活中」（深夜営業店舗やシェルターなどで生活している人を含む）が2014年度は30%だったのに対し、2015年度は52%と全体の半数以上を占めました。「仕事をしたいけど住所がない」「携帯電話を持っていないから仕事の連絡が取れない」「手元にお金がないので、日払いで給料を受け取りたい」「なるべく公的な支援を使わずに自分の力で生活費を稼ぎたい」といったジレンマやニーズを汲み取り、当事者の「働きたい」という思いに寄り添ってきました。

#### 就労支援を受けた人の生活状況

※生活状況は就労支援開始時のもの

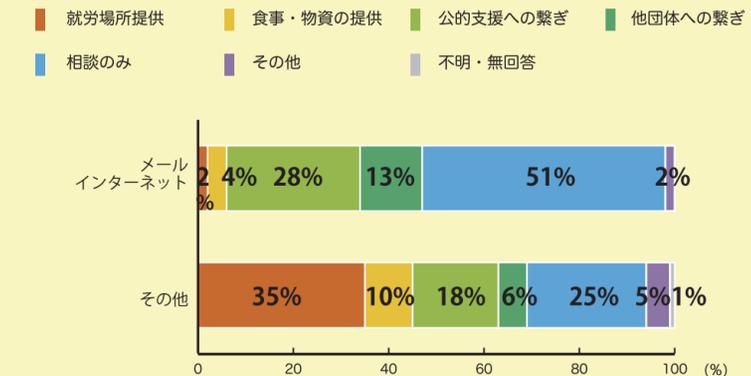


### 今後の課題

- 🏠 「相談」から「支援」へのスムーズな移行  
成果の検証とフォローアップ
- 🏠 若い世代に提供できる就労メニューの開拓  
自社雇用の拡大、有料職業紹介の活用
- 🏠 長期的な生活の安定までをサポートする伴走体制  
宿泊施設（シェルター）の運営、相談体制の強化

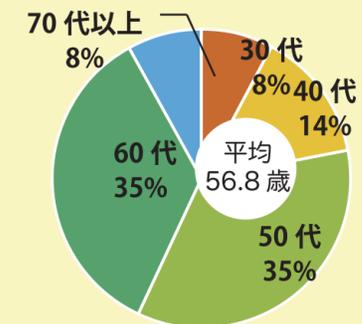
一方で、課題も多く残っています。まず、『相談』から『支援』への移行です。深夜営業店舗への広告等の設置により、インターネットを通じた相談件数が大幅に増加したことは前述したとおりです。しかし、「相談方法別の相談後の支援結果」を見ると、「メール、インターネット」による相談者は「相談のみ」で終了している人が約半数の51%となっています。また、電話や来所による相談者に比べ、「就労場所の提供」や「食事・物資の提供」といった直接的な支援に繋がった割合はかなり低くなっています。メールやインターネットを通じて相談する人には遠方に住んでいる人が多いこと、電話や来所と違い必要な情報を聞き出すまでのやり取りに時間を要する場合があること、所持金が尽きかけている中で相談メールを送ったものの、すぐに深夜営業店舗の利用料金や携帯電話代が払えなくなり連絡が途絶えることなどが背景にあると考えられます。遠方からの相談の場合、相談者の居所に近い場所にある支援機関などを紹介しますが、そこで実際に相談したり支援に繋がったりしたかわからないままやり取りが終わってしまうケースも少なくありません。

#### 相談方法別の相談後の支援結果

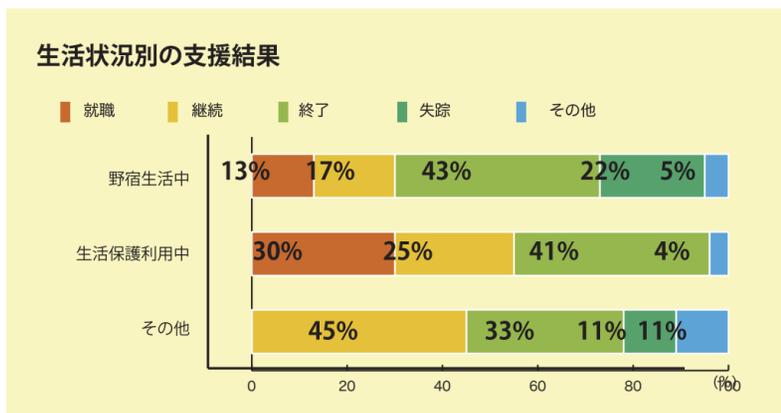


次に、「相談者と就労者の層のギャップ」です。相談に来た人の年齢層は、40代以下が約半数となりましたが、実際にHomedoorで就労支援を受けた人の年齢構成を見ると、40代以下の人は22%にとどまっており、50代以上の人が大部分を占めています。若い人は派遣や日払いの仕事で食いつないだり、ハローワークや自立支援センターを活用して就労の幅を広げたりすることも可能ですが、センターに入ることに抵抗のある人や、就労経験・スキルが乏しい人などが、慢性的なホームレス状態に陥るリスクがあります。

#### 就労支援を受けた人の年齢構成



そして、「生活の安定化」です。「生活状況別の支援結果」を見ると、野宿生活中の人は居宅生活中の人に比べ「失踪」の割合が高く、「就職」「継続」の割合は低いことがわかります。考えられる要因は様々ですが、まず「住居が不安定な状況では安定した仕事を見つけるのが難しい。しかし、安定した仕事がないと住居を借りる資金が用意できなかったり審査に通らなかったりする」というにっちもさっちもいかない状況(ダブルバインド)があります。また、野宿状態が長く続くと「その日暮らし」の感覚が染み付いてしまい、住居を得た後も継続して収入を確保し続けることに対するプレッシャーを感じ、なかなか次の段階への一歩を踏み出せない人もいます。



住居を構え、団らんする相談者

これらの課題をふまえ、相談支援と就労支援において今後取り組むべきと考えることは以下のとおりです。

- ・「相談」から「支援」に繋がる人を増やす
- ・就労支援メニューの種類を増やす
- ・長期的な生活の安定までをサポートする伴走体制を構築する

まず、「相談」から「支援」への移行をスムーズにすることです。相談後の経過を確認し、適切な支援に繋がることができたかを検証しつつ、必要に応じてフォローアップを行っていく必要があります。

次に、多様化する相談者のニーズに応えられるよう就労メニューを増やすことです。特に若い世代の生活困窮者が就労経験・スキルを身につけながらできる仕事を開拓していく必要があります。自社雇用のできる事業を増やしたり、有料職業紹介などを活用し企業とのネットワークを広げたりするよう努めていきます。

そして、支援終了後も長期的に安定した生活ができるような伴走体制を構築することです。限られた期間の支援プログラムの中で生活を安定させ、次の段階に向けて準備することは、体力的にも精神的にもエネルギーのいることです。ただ仕事と収入を与えるのではなく、困窮状態でもすぐに利用できる宿泊施設(シェルター)を運営したり、一人ひとりの課題に寄り添いながら伴走できる相談員を増やして体制を強化したりすることが求められます。

## 誤った認識を減らす 啓発活動

2015年度は年間97回の講演やワークショップを実施し、多くのメディアに取り上げていただきました。また日本経済新聞社主催の「第3回ソーシャルイニシアチブ大賞」にて『新人賞』という身に余る賞を頂戴することができました。こういった様々な活動を通じ、ホームレス問題を様々な世代の人たちに知ってもらうことは、ビジョンである「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくり」に強く繋がっていると考えています。



またHomedoorでは2013年度よりホームレス問題に関する書籍や教材DVDを作成している「一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネットワーク」の事務局も担当しており、教育という観点からもホームレス問題を考えることを大切にしています。

### 2015年度の啓発活動

釜 Meets (定期開催)	5回
街歩き・ワークショップ (依頼開催)	19回
講演会	73回
<b>合計</b>	<b>97回</b>

### メディア

朝日新聞「大阪府に求めること」  
 毎日小学生新聞「ホームレスと向き合う」  
 Newsweek 日本版「「ホームレス」を生み出さない社会を目指して」  
 ダイヤモンド・オンライン「「ホームレスの特技」を生かした新たな就労スタイル」  
 中小企業庁「地域課題を解決する中小企業・NPO 法人 100 の取組」  
 ABC ラジオ「とびだせ！ 夕刊探検隊」  
 THE BIG ISSUE 170号 ほか多数

### 2015年度の受賞

日経ソーシャルイニシアチブ大賞「新人賞」

### BEN&JERRY' S のアイスクリームに HUBchari の名前入りフレーバーが登場！



2015年4月より発売されたアメリカ生まれのプレミアムアイスクリーム BEN&JERRY' S の日本限定のヨモギフレーバー、名前はなんと「HUBchari YOYOYOMOGI (ハブチャリ ヨヨヨモギ)」！若い世代を中心に HUBchari や Homedoor の活動を知っていただくきっかけをつくることができました。BEN&JERRY' S のプレスリリースでは以下のとおりで紹介いただきました。

四国生まれのよもぎを使ったアイスクリームに、塩キャラメルでコーティングしたクルミがゴロゴロはいった「ハブチャリ ヨヨヨモギ」は、放置自転車とホームレスの問題をいっぺんに解決する HUBchari みたいに、「おいしい」と「いいこと」を一緒に味わえるフレーバーです。

## 2015年度にお世話になった皆さま

 株式会社アクロス	 大阪ガス株式会社	 社会福祉法人大阪ボランティア協会
 合同会社シクロ	 一般社団法人水都大阪パートナーズ	 積水ハウス株式会社
 株式会社セールスフォース・ドットコム	 浜口産業株式会社	 株式会社プラネット
 ホテル中央グループ	 ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社 (BEN&JERRY'S)	 株式会社ロッキーホーム

株式会社 アイ・プランニング、大阪市(市民活動推進助成事業)、大阪市北区役所、大阪市西成区役所、大阪市ボランティア活動市民センター、大阪東急 REI ホテル、大阪府(地域福祉振興助成金)、有限会社川口、積水ハウス梅田オペレーション株式会社、グーグル株式会社、損保ジャパン日本興亜福祉財団、株式会社第三文明社、特定非営利活動法人炊き出し志絆会、日本システム技術株式会社、株式会社バイタル、独立行政法人福祉医療機構、特定非営利活動法人ふーどばんく大阪、特定非営利活動法人フリーヘルプ、特定非営利活動法人 HEALTH SUPPORT HINATA、一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネット、ヤフー株式会社

(敬称略・五十音順)

## 応援してくださっている皆さまからのメッセージ (五十音順)



私が Homedoor を設立当初から応援しているのは、Homedoor の活動が単なるホームレスの方々に支援する取り組みにとどまらず、その活動がフェアな日本社会の実現に繋がると感じたからです。私は数多くの方々のキャリア支援を行ってきましたが、そこで感じたのが、誰もがいつホームレス状態になってもおかしくない、ということです。Homedoor の活動によって、望まないホームレス状態が無くなり、全ての人にフェアに機会が与えられる。そんな日本の実現を心から望み、私はこれからも Homedoor を応援します！

理事 杉浦元

これだけ、豊かになった日本で、これほど多くのホームレス状態の方がいることを、私は知りませんでした。昨年、公志園の活動の中で、NPO 法人 Homedoor の皆さんと知り合いになり、自分でもこの問題を自分ごととして考えるようになり、実際にホームレス状態の方とも触れ合うことができました。Homedoor としては、今の活動をより充実しながら、さらに住居の問題など、重層的な課題の解決を図っていくようなビジョンを掲げております。日本社会をもっとより良いものにしていくためにこの、Homedoor の活動を、私自身も応援していきたいと考えております。ぜひ、1 人でも多くの方々に、彼ら彼女たちの応援団として様々なご支援を頂きますと幸いです。



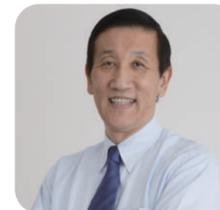
株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役 竹原啓二



「社会イノベーター公志園」で、川口さんはじめ Homedoor の皆さんと出会いました。困難な社会課題に取り組み、本気で社会を変えたいと考え行動しようとしているところに共感しています。同時に、活動に感じるある種の軽やかさも大事な点かなと思っています。そのことが(若い世代中心の運営も相まって)、様々な反響や心配を呼んでいるのも事実ですが、なに、それは今の時代に始まったことではありません。試行錯誤を恐れず前に進んでいただきたいと思っています。

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授 中村陽一

昨年、Homedoor に出会い、ホームレス問題と初めて向かい合いました。なんとなく「自己責任」とか「働けばいいのに」と思っていた自分がいましたが、一度路上生活者になってしまうと社会復帰が極端に難しい日本社会の現状を知り愕然、夜回りにも参加し、Homedoor のやっていることの意義もよく分かるようになりました。偏見の少ない、誰でも再チャレンジできる、より良い社会を私は是非作りたいので、これからも Homedoor を応援していきます！



日本 GE 合同会社 代表職務執行者社長兼 CEO 安淵聖司

### 企業さまとの連携事例①

株式会社モンベル様から寝袋をいただきました。



株式会社モンベル「モンベルクラブ・ファンド」様より、寝袋 30 個をご寄付いただきました。夜回りでお会いした人や Homedoor へ相談に来られた人の中には冬も外で寝ている路上生活中だという人は少なくありません。「モンベルの寝袋やん！あったかいから助かるわ。」とお渡しした方はみなさん大喜びしてくださいました。

<モンベルクラブ・ファンドとは>(公式 HP より抜粋)  
「モンベルが自然環境や社会に対してできること」を考え、自然保護や社会貢献、冒険・探検などの活動を行う非営利団体や個人に対して支援を行うモンベル独自の基金です。

### 企業さまとの連携事例②

三星毛糸株式会社様から新品の衣服をいただきました。

岐阜県にある創業 1887 年の老舗繊維製造業の三星毛糸株式会社様より T シャツやトレーナーなど新品の男性服を 100 着ご寄付いただきました。

Homedoor で就労支援を受けている人を中心にお渡することができました。サイズ展開も豊富で、小柄な人から大柄な人までそれぞれにぴったりのサイズがあり、大変重宝いたしました。



## 財務報告

### 活動計算書 (5期: 2015年4月1日~2016年3月31日)

単位: 円

		前期: 4期決算 (2014年4月1日~ 2015年3月31日)	当期: 5期決算 (2015年4月1日~ 2016年3月31日)
経常収益	受取会費・寄付	5,866,723	3,474,170
	受取助成金	5,936,000	19,071,500
	受取補助金	667,000	1,700,000
	事業収益 (就労支援 (生活支援))	18,069,829	50,688,463
	(啓発活動)	809,920	0
	受取利息・雑収益	3,231,794	1,735,654
	受取利息・雑収益	113,717	1,496,529
	経常収益計	40,694,983	78,168,593
経常費用	事業費 人件費	16,277,517	37,147,992
	その他経費	3,915,979	6,590,733
	管理費 人件費	7,228,564	12,331,513
	その他経費	2,877,813	9,020,841
	経常費用計	30,299,873	65,091,079
	法人税、住民税及び事業税	430,700	1,197,400
	当期正味財産増減額	9,964,410	11,880,114
	前期繰越正味財産額	8,914,693	18,879,103
	次期繰越正味財産額	18,879,103	30,759,217

### 貸借対照表 (2016年3月31日時点)

単位: 円

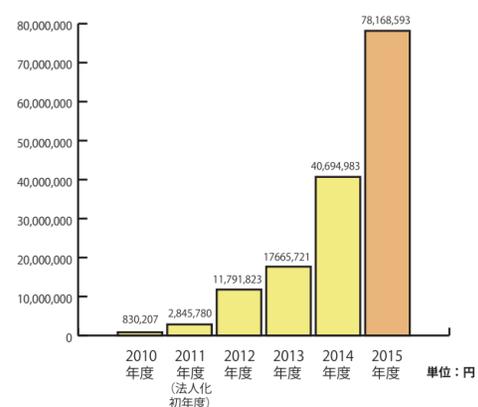
資産の部		負債の部	
流動資産	現金・預金 19,686,081	流動負債	未払金 5,304,861
	売掛金 140,940		短期借入金 1,923,199
	未収入金 17,206,311		預り金 411,801
	預け金 78,500		未払い法人税等 70,000
	その他流動資産 438,268		未払い消費税 3,021,400
固定資産	建物附属設備 1,100,000	正味財産の部	前期繰越正味財産額 18,879,103
	車両運搬具 2,411,796		当期正味財産増減額 11,880,114
	什器備品 292,582		正味財産計 30,759,217
	保証金 136,000		

**監査報告書**

2015年4月1日から2016年3月31日までの監査を行った結果、客観的資料に基づき、明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

2016年6月10日  
特定非営利活動法人 Homedoor  
監事 木原 可樹子

### 年度別団体活動規模



## 2016年度の方針

### 一人ひとりの特性に応じた就労支援プログラムを提供する

就労支援プログラムにおいて提供する仕事の種類を増やします。2015年度は、雇用枠と雇用者の数を大幅に増やすことができました。これまでより多くの生活困窮者に就労の場を提供しましたが、職種が少ないため一人ひとりの特性やニーズに応じることが難しく、画一的な取り組みになっていました。よって、今後は提供できる仕事の種類を増やしていくことが求められます。まずは清掃業務など、資格や経験がない人でも始めやすい職種から用意していこうと考えています。

### 生活困窮者の抱える問題を早期に解決する

専門的な知識と経験を持つ、相談業務専門スタッフを配置します。ホット&ハウスの開所や深夜営業店舗へのバナー広告設置を行った結果、相談者数が大幅に増え、実施する支援の内容も多岐に渡るようになりました。困窮状態が深刻化する前に相談者の抱える問題を解決するためには、必要な支援・制度の利用に確実につなぐことのできる専門性や対人援助スキルが求められます。そこで、精神保健福祉士などの有資格者を配置し、課題の早期解決に努めます。相談ボランティア制度も引き続き実施し、スキルを持った人材の養成を行っていきます。

### 宿泊場所を提供する

困窮状態でもすぐに寝泊まりでき、プライバシーを保つことのできる宿泊場所(シェルター)を運営します。Homedoorに来る相談者の多くは、住居喪失状態にある人です。行政の窓口に繋ぎ公的施設に則った宿泊施設に入ってもらえることは可能ですが、当日の申込締切時間に間に合わずその日のうちに入所できないことがあります。また、施設は相部屋であるためプライバシーの確保が難しく、入所をためらったり、すぐに無断退所したりしてしまう人もいます。そこで、困窮状態でもすぐに入所することができる個室の宿泊場所(シェルター)を用意します。2016年度中にアパート数室を借り上げ実験的に運用し、その後部屋数を増やし本格的に運営していく予定です。

### 働きやすく安定した組織にする

組織内における評価制度の導入や就業規則の見直しを行います。Homedoorは2016年度、法人として6期目に入ります。事務局職員も就労支援を受けながら働く当事者スタッフも年々増えており、働きやすいルールや制度を整えるべきフェーズを迎えました。加えて、団体としてより財政的な安定を図るため、認定NPOを取得する予定です。より多くの方々からの信頼とご協力をいただくためにも、職員・スタッフが働きがいを感ずることのできる組織づくりに努めていきます。

### ステークホルダーを見える化する

ステークホルダーの関わりが見える仕組みを作ります。2015年度は、経営者や学識者の方など、さまざまな分野で活動する方々から事業へのアドバイスやご協力をいただきました。また、企業さまや各団体さまと連携し、物品を提供いただいたり、健康相談会などの新たな取り組みを開始したりすることもできました。ホームレス問題は、すべての社会問題の集積です。住居、仕事、家族、健康など、さまざまな問題が複雑に絡み合った結果、ホームレス状態の人が生まれるのです。「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造」をつくることは、Homedoorだけでできることではありません。ステークホルダーを増やし、さまざまな分野・視点から関わっていくことが大切です。2016年度は、これまで関わってくださっている方々の活動をしっかりと外に示していきます。その取り組みを通じて、新たなステークホルダーの獲得に繋げ、誰もがホームレス問題を「自分と無関係な他人ごと」ではない、身近な問題として考え行動していけるようムーブメントを起こしていきます。